



- BLUE SERIES -

MANUAL



SUSTAINOR

一般的な使用法

このたびは、SUSTAINOR をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。本製品を末永くご愛用いただくためにも、取扱説明書をよくお読みになって、正しい方法でご使用ください。

今すぐ SUSTAINOR を使いたい場合はこのページの解説に従い操作して下さい。しかし、この洗練されたシグナル・プロセッサの能力を完全に理解し、使いこなすためにはマニュアルの残りの部分をお読みになることを強くお奨めします。

1. 接続するアンプなどの電源がオフになっているのを確認してから SUSTAINOR を接続してください。

注意： AC アダプターは推奨のアダプターをご使用ください。

2. SUSTAINOR の OUTPUT からパワーアンプ、ミキサーのライン入力、またはギターアンプに接続します。ハイ/ローの入力が選べるギターアンプを使用する場合はローゲイン入力を使用するのがお勧めです。アンプやミキサーのトーンコントロールは基本的に中央にセットしてください。

3. 先ずは SUSTAINOR の **GAIN**、**TREBLE BOOST** は12時、**SUSTAIN**は“15”、**GATE TRIG.** は“0”に設定し、**PRESET MODE** と **PHASE** は全てオフ(OFF)にセットして下さい。

4. 接続したパワーアンプ等、サウンドシステムの電源をオンにしてください。アンプのボリュームを上げて音量を決め、SUSTAINOR の **CHANNEL LEVEL** 及び **TREBLE BOOST** を調整してください。求めるサウンドやアンサンブルに応じて **CHAN A/B** の音色や **PRESET**、**PHASE** などのスイッチを使用してください。

コントローラーの説明

MODE SELECT : CHAN A/B の2チャンネルがあり DIST/EDGE/CLN/CLN2 を切り替えます。

GATE TRIG. : ノイズゲートの感度を調整できます。高い周波数成分がカット(ゲーティング)されている間、LEDが点灯します。このノイズゲートはノイズの周波数帯域に近い高域のみに作用します。このため音切れのないノイズリダクション効果が得られます。

CHANNEL A LEVEL :
CHAN A の出力レベルを調整できます。

CHANNEL B LEVEL :
CHAN B の出力レベルを調整できます。

PREAMP GAIN : 接続するギターの出カレベルに合わせます。最も良いセッティングの仕方は CLN か CLN2 モードでコードを強く弾いた時、CLIP LEDが点灯するように調整してください。

SUSTAIN : サスティンのフィードバックをコントロールします。

COMPRESSOR : コンプレッサーの動作が表示されます。LED はコンプレッションのスレシヨルド値を示します。

PRESET MODE A/B : CHAN A/B それぞれのモードをより細かに調整できます。

PHASE : 多スピーカーキャビネットをマイクで収録した場合のフェーズ打ち消しパターンを再現します。



TREBLE BOOST : 全体の高音成分をコントロールします。アンプやサウンドシステムなどの最終的な補正をする時にご使用ください。

OVERDRIVE THRESH : DIST/EDGEモードが動作するとき点灯します。

CHANNEL : CHAN A(Red) とCHAN B(Green)の切り替えを行います。

ON/OFF SWITCH : エフェクトオン/バイパスを切り替えます。

プリアンプ ゲイン

インプットジャックには普通のギターピックアップ、アクティブギターのプリアンプ、エレクトリックピアノ、エフェクター等どんなハイインピーダンスの機器でも接続できます。ローインピーダンスのマイク等にはマイクプリアンプ等を通してからサスティナーに接続してください。

PREAMP GAIN 全てのモードで細かいゲイン調整に使います。また、必要に応じオーバードライブモードで+8dBのゲインブーストをすることもできます。しかしクリーンモードでゲインを上げすぎると不必要な歪みを起こす可能性があります。

PREAMP GAINと**CLIP LED**はサスティナーのメインコンプレッサーに送り込まれる信号のレベルを最良にセットするためにあります。**CLN**か**CLN2**モードを選び、コードを強く弾いたときにLEDが一瞬点灯するまでGAINを上げてください。これで**CLN**か**CLN2**サウンドを使うときにディストーションが掛かりすぎることなく最大のコンプレッションが得られます。

EDGEか**DIST**モードを使うときに**CLIP LED**が点灯するのは正常です。

出力レベルの高い機器を接続するとプリアンプバッファをクリップさせることがあり、これが歪みの原因となります。**CLN**か**CLN2**を使用し、**GAIN**がすでに0にセットされていてもまだ**CLIP LED**がしばしば点灯する場合は、接続した機器の出力を下げてください。

SUSTAIN はじめに**GAIN**で大まかな調整をした後にサスティンタイムを調整してください。全てのオーバードライブでディストーションを増減するのにも使います。

SUSTAINレベルは一番始めにあるコンプレッサーコントローラーで全てのモードでサスティン時間を調整する為にあり、大音量のステージ上でフィードバックを防止するのにも使われます。このコントロールはサスティナーでディストーションサウンドを作り出すときに歪みの倍音を増減するのにも使います。

通常の使用にはメモリ15にセットすることをお勧めします。この位置では楽器音に対し約15dBのゲイン減衰効果が得られ、生のギター音に比べると大幅にサスティンが伸びたように感じられるでしょう。

コンプレッサー

COMPRESSION LEDはコンプレッサーの動作を表示します。「LED」はコンプレッションのスレッシュホールド値を表し、「緑」は約2dBのゲイン減衰に相当します。「黄」はゲイン減衰が10dBの中位のコンプレッション、「赤」はゲイン減衰が20dB以上のハイコンプレッションを表します。ゲイン減衰の量はコンプレッサーに入ってくる信号レベルにより決定され、**SUSTAIN**や**PREAMP GAIN**、および楽器の出力レベルにより変化します。

非常に長いサステインを得るにはレベルを「赤」に調整します。これにより**CLN/CLN2**モードにしても若干の歪みがかかるようになりますが、ギターの出力によっても異なります。

大音量のステージでフィードバックが起こったら**OUTPUT LEVEL**でなく**SUSTAIN**を下げてください。この場合、**PREAMP GAIN**を少し下げても良いでしょう。また**GAIN BOOST**はフィードバックを増大させます。

コンプレッションを無くすには**SUSTAIN**を”0”にし、必要に応じて**GAIN**を下げてください。これによりサスティナーのEQが効いたナチュラルサステインのリニアでローノイズなサウンドが得られます。**SUSTAIN**を”0”にすると出力ボリュームは自動的に調整され、大きなボリュームロスが感じられないようになっています。

ゲート

このノイズゲートは特に高い周波数のノイズ（ヒス/バズ等）を除く為に設計されています。信号に高い周波数成分のない時、オーディオ周波数成分の高い方が1.5kHz以上で1オクターブあたり6dBの割合で減衰し、このため基音と低い周波数の倍音は変化することなくフルにサステインします。ノイズゲートは高いサステインセッティングでノイズやヒスが浮き上がってくるのを防止するだけでなく、シングルコイルピックアップやギターとサスティナーの間につながれたエフェクター等から発生するヒスやバズも取り除きます。

このノイズゲートは一般的なものと効果が異なり、音が長く伸ばされたときはゆっくりと、短いときは素早く反応して自動的にノイズを取り除き、音符の最後の部分が途切れたりすることがありません。ゲートのアタックタイムは極端に早い為、音符の頭も正しく再現されます。

GATE TRIG.はゲートのスレッシュホールドレベル（感度）をコントロールし、”0”からゲートによる高音カットがスタートします。ギターや他の機材のノイズが多いとき、**GATE TRIG.**が”0”の場合はゲートが閉じません。また最大にセットすれば音を出している途中で高音域がカットされることがあります。よって音が完全に消える前にヒスノイズが消え始めるようツマミを調整してください。ヒスノイズが減衰している間、黄色のLEDが点灯します。

チャンネル

MODE SELECT/PHASEセクションでは透き通るようなクリーンサウンドから激しいディストーションサウンドまで作り出すことができます。**CHAN A/B**のコントローラーは4つの基本的なギターサウンドを選択するためのセレクターで、**PRESET MODE A/B**はこれらのサウンドのバリエーションを提供します。**PHASE**はMODE回路の後に影響するコントローラーです。

MODEスイッチ (**DIST/EDGE/CLN/CLN2**) は最も重要なコントローラーで、ギターサウンドの倍音を4種類に分類します。モードを変えるたびに内部EQ、ゲイン、コンプレッション、ディストーション回路と様々なパラメーターが変化します。

DIST 中域の周波数を意識的に強め、パワフルなオーバードライブを提供します。

EDGE 中域の周波数を若干強めたサステインが効いたオーバードライブな音質です。

CLN 全体のEQはDISTやEDGEを似ていますが、よくサステインするクリーンなサウンドです。

CLN2 高域の伸びた自然なEQで、コンプレッションの効いたエレアコ風なクリーンサウンドです。

2つのチャンネルを使って、2つの異なるプリセットされたサウンドをCHANNELフットスイッチにより切り替えて使用できます。2つ同時に使用はできません。

OVERDRIVE THRESH LEDは、**EDGE**か**DIST**モードでギター信号がディストーションを生むのに十分なレベルの場合に点灯します。

プリセット モード

GAIN BOOST **DIST**と**EDGE**のディストーション回路に入る信号をブーストします。DISTの場合は7dBのゲインが加わることで超ハイサスティンサウンドになり、ハイパワーリードやパワーコードに適しています。**EDGE**の場合は中域が14dBブーストされたもう一つのハイエネルギーサウンドになります。このようにゲインを増幅することにより**EDGE**のサウンドはノーマルな**DIST**に似て、パワーリズムなどに適したサウンドが得られます。もし大音量のステージ上でフィードバックを起こすようなことがあったら、**GAIN BOOST**を切るかコンプレッサーの**SUSTAIN**を下げてください。このスイッチは**CLN**と**CLN2**には動作しません。

AUTO CLN ギターのボリュームノブを調整するだけでディストーションの掛かったサウンドからクリーンなサウンドに変えることができます。通常のギターアンプの場合と異なりギターボリュームを下げて音がかもったり音量が下がったりすることがありません。また、**AUTO CLN**は**EDGE**モードのときのみ働きます。大きな信号（ギターボリュームが全開）では**EDGE**サウンドは変化しません。小さな信号ではギターボリュームを下げたときに起こる高域とボリュームのロスが自動的に補われます。**GAIN BOOST**がオンになっていても**AUTO CLN**は動作しますが、クリーンサウンドは若干中域が強調されます。

SEMI CLN ノーマルなクリーンサウンドに若干のディストーションが加わります。このモードでは軽いディストーション段に入る前でゲインのセッティングを変えています。

また、**SEMI CLN**サウンドは**CLN**モードでのみ働きます。

PHASE スピーカーを4発搭載したキャビネットなどをマイクで収録した時の理想的な位相の音を再現します。ライン出力時には特に効果的で、ミキサーやDAWなどに直接繋いで使用することもできます。

アウトプット

OUTPUTでコンプレッサーやディストーションなど全てを通った後の全体のEQと音量を調整します。

TREB BOOST 全体の周波数特性を大まかに調整します。これはトーンコントローラーとして設計されたものでなく、サスティナーの周波数特性を小型のギターアンプからPAミキサーまで全ての出力デバイスに合うように調整するための機能であるをご理解ください。ノーマル位置では”+20”でフラットなサウンドシステムに適した特性が得られます。アンプやスピーカーなどによって高域がきつく感じられる場合はセッティングを少し下げてください。

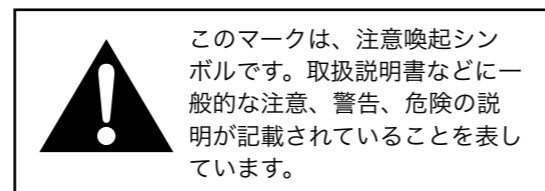
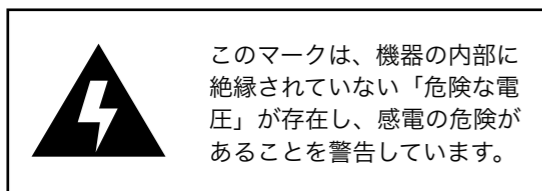
CHANNEL LEVEL サスティナーの最後のボリュームコントローラーです。これは全てのディストーションとコンプレッション回路の後ろに位置しているためマスターボリュームと考えることもできます。トータルの調整可能なレンジは”15dB”です。

CHANNEL Aと**B**は、それぞれ**CHAN A**と**CHAN B**で選択されたモードの音量を個別に調整することができます。

安全上のご注意



注意：感電防止のため、パネルやカバーを外さないでください。
お客様ご自身による修理・交換は大変危険ですので、おやめください。
修理はお買い上げ店、または（株）ランチャーに依頼してください。



警告

ご使用になる前に必ずお読みください

ここに記載した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、あなたや他の方々への危害や損害を未然に防ぐためのものです。これらは、あなたや他の方々の安全や機器の保全に関わる重要な内容ですので、よく理解した上で必ずお守りください。

以下の指示を守ってください

- ・ この機器を分解したり、改造しないでください。
- ・ 修理・部品交換で、取扱説明書に書かれていないことは、絶対にしないでください。必ずお買い上げ店、または（株）ランチャーに相談してください。
- ・ ACアダプターのプラグは、必ずAC100Vの電源コンセントに差し込む。
- ・ ACアダプターのプラグにほこりが付着している場合は、ほこりを拭き取る。

感電やショートのおそれがあります。

- ・ 本製品はコンセントの近くに設置し、ACアダプターのプラグへ容易に手が届くようにする。

- ・ 次のような場合には、直ちに電源を切ってACアダプターのプラグをコンセントから抜く。

○ACアダプターが破損したとき ○異物が内部に入ったとき ○製品に異常や故障が生じたとき ※修理が必要なときは、販売先へ依頼してください。

- ・ ACアダプターのコードを無理に曲げたり、発熱する機器に近づけない。また、ACアダプターのコードの上に重いものをのせない。

コードが破損し、感電や火災の原因になります。

- ・ 大音量や不快な程度の音量で長時間使用しない。
大音量で長時間使用すると、難聴になる可能性があります。万一、聴力低下や耳鳴りを感じたら、専門の医師に相談してください。
- ・ 本製品に異物(燃えやすいもの、硬貨、針金など)を入れない。
- ・ 温度が極端に高い場所(直射日光の当たる場所、暖房機器の近く、発熱する機器の上など)
- ・ 振動の多い場所で使用や保管をしない。
- ・ ホコリの多い場所で使用や保管をしない。
- ・ 風呂場、シャワー室で使用や保管をしない。
- ・ 雨天時の野外のように、湿気の多い場所や水滴のかかる場所で、使用や保管をしない。
- ・ 本製品に液体をこぼさない。
- ・ 濡れた手で本製品を使用しない。
- ・ 電池は乳幼児の手の届くところに置かない。
電池を飲み込んだ場合は、すぐに医師に相談する。

注意 この注意事項を無視した取り扱いをすると、傷害を負う可能性、または物理的損害が発生する可能性があります。

- ・ 正常な通気が妨げられない所に設置して使用する。
- ・ ラジオ、テレビ、電子機器などから十分に離して使用する。
ラジオやテレビ等に接近して使用すると、本製品が雑音を受けて誤動作する場合があります。また、ラジオ、テレビ等に雑音が入ることがあります。
- ・ 外装のお手入れは、乾いた柔らかい布を使って軽く拭く。
- ・ ACアダプターをコンセントから抜き差しするときは、必ずプラグを持つ。
- ・ 長時間使用しないときは、電池の液漏れを防ぐために電池を抜く。
- ・ 長時間使用しないときは、ACアダプターをコンセントから抜く。
- ・ 指定のACアダプター以外は使用しない。
- ・ 他の電気機器の電源コードと一緒にタコ足配線をしない。
本製品の定格消費電力に合ったコンセントに接続してください。
- ・ 電池を過度の熱源(日光、火など)にさらさない。
- ・ スイッチやツマミなどに必要以上の力を加えない。

故障の原因になります。

- ・ 外装のお手入れに、ベンジンやシンナー系の液体、コンパウンド質、強燃性のポリッシャーを使用しない。

- ・ 不安定な場所に置かない。

本製品が落下してお客様がけがをしたり、本製品が破損したりする恐れがあります。

- ・ 本製品の上に乗ったり、重いものをのせたりしない。

本製品が落下または損傷してお客様がけがをしたり、本製品が破損したりする恐れがあります。

INPUT	インピーダンス 2MΩ 以上 最大レベル 3.3Vrms(+10dBv)
コンプレッサー	調整レンジ 21dB
ゲート	ハイカット周波数特性 . . . -3dB at 1.5kHz, -20dB at 15kHz THRESHレンジ 20dB連続
OUTPUT	インピーダンス 1kΩ CLN最大レベル 1.5Vrms(+6dBV) DIST/EDGE最大レベル . . . 1Vrms(0dBV) 高域ブーストレンジ 20dB at 4kHz連続 TREB. BOOST レンジ 20dB連続
サイズ	W134, D126, H71 (mm) 突起含む
電池	9Vアルカリ乾電池x1
ACアダプター	9V DCセンターマイナス 1A以上 ※製品の仕様上、電池での連続使用可能時間は10分ほどとなります。 専用のACアダプターのご使用をお勧めします。

※本仕様は予告なしに変更されることがあります

販売元
株式会社ランチャー
〒169-0072 東京都新宿区大久保3-8-1
goat-design.jp